

死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護

指導の視点

「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。

修了時のポイント

ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 1時間 | 講義 第3巻(P373~461) 1.終末期に関する基礎知識 ●終末期ケアとは ●高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死) ●臨終が近づいたときの兆候と介護 |
| | 1時間 | 2.「死」に向き合うところの理解 ●介護従事者の基本的態度 |
| | 1時間 (通信30分) | 3.苦痛の少ない死への支援 ●多職種間の情報共有の必要性 |
| | | |
| | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

生活と家事

指導の視点

家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援

修了時のポイント

家事援助の機能と基本的原則について列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|----------------------------------------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 講義 テキスト③P81～96 1.家事と生活の理解 ●生活歴 ●自立支援 ●予防的な対応 ●主体性・能動性を引き出す ●多様な生活習慣 ●価値観 |
| | 0分 (通信3時間) | 2.家事援助に関する基礎的知識と生活支援 テキスト③P97～119 |
| | | |
| | | |
| | | |
| 添削指導及び面接指導の方法等 | | |
| レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。 | | |

睡眠の介護

指導の視点

睡眠のメカニズムを学ぶとともに、利用者の不眠の原因となる睡眠障害について

修了時のポイント

睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

| 求職者支援 | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|-------|-----|--------------------------------------------------------------------|
| | 1時間 | 講義 テキスト③P357～372 1.睡眠に関する基礎知識 |
| | 1時間 | 2.さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ●安眠のための介護の工夫 ●環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室) |
| | 1時間 | 3.快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ●安楽な姿勢・じょくそう予防 |
| | | |
| | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

快適な住環境整備と介護(住環境整備、福祉用具)

指導の視点

快適な住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法

修了時のポイント

生活の基本となるのは、快適な居住空間です。利用者にとっての居心地の良い環境づくりを行う上で、覚えておかなければいけない知識はたくさんあります。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|----------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| | 3.5h (通信1h) | 講義 テキスト③P125～145 1.快適な住環境に関する基礎知識 ●家庭内に多い基礎知識 ●バリアフリー ●住宅改修 ●福祉用具貸与 |
| | | 2.高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 |
| | | |
| | | |
| | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

介護の職務の理解

指導の視点

- 研修課程全体(130時間)の構成と各研修科目(10科目)相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。
- 視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来る限り具体的に理解させる。

修了時のポイント

研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 60分 | 講義 テキスト①P1～14 テキスト①P4 図表序-1 「介護」とは ・法律の用語からみた「介護」 多様なサービスの理解 ●介護保険サービス (居宅、施設、地域密着型サービス) ●介護保険外サービス |
| | 60分 | 2.介護職の仕事内容や働く現場の理解 テキスト①P15～24 ●居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容(介護業務) |
| | 90分 | ●居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ(視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等) |
| | 90分 | ●サービス利用の手続き テキスト①P205～216 ・介護保険制度創設の背景 ・介護h県制度創設までの経緯 ・介護保険施行後の状況 ・介護保険制度の目的等 ・サービス利用の手続き |
| | 60分 | 介護の資格とキャリアシステム テキスト①P32～42 ●介護福祉制度 ●初任者研修の内容 ●キャリアパスのイメージ ●初任者研修の位置づけとねらい |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

介護における尊厳の保持・自立支援

指導の視点

- 具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと自立支援・介護予防という考えに基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。
- 具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。
- 利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその利用について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。
- 虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。

修了時のポイント

- 介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。
- 虐待の定義、身体拘束およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 2H (通信3.5H) | 講義 テキスト①P43～114 1.人権と尊重を支える介護 (1)人権と尊厳の保持 P43～53 ●個人としての尊重●アドボカシー ●エンパワメントの視点●「役割」の実感 ●尊厳のある暮らし●利用者のプライバシーの保護 |
| | | (2)QOL P54～63 ●QOLの考え方 ●生活の質 |
| | | (3)ノーマライゼーション P64～73 ●ノーマライゼーションの考え方 |
| | | (4)虐待防止・身体拘束禁止 P73～80 ●身体拘束禁止●高齢者虐待防止法 ●高齢者の養護者支援 |
| | | (5)個人の権利を守る制度の概要 P80～85 ●個人の情報保護●成年後見制度 ●日常生活自立支援事業 |
| | 1H (通信2.5H) | 2.自立に向けた介護 (1)自立支援 P87～100 ●自立・自律支援●残存機能の活用 ●動機と欲求●意欲を高める支援 ●個別性/個別ケア●重度化防止 |
| | | (2)介護予防 P100～114 ●介護予防の考え方 |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

介護の基本

指導の視点

- 可能な限り具体的例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。
- 介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。

修了時のポイント

- 介護を目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
- 介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療、看護との連携の必要性について列挙できる。
- 介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
- 生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
- 介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 30分 (通信1h) | 講義 テキスト①P117～202 1.介護職の役割、専門性と多職種との連携 (1)介護環境の特徴の理解 P117～126 ●訪問介護と施設介護サービスの違い ●地域包括ケアの方向性 |
| | | (2)介護の専門性 P127～141 ●重度化防止・遅延化の視点 ●利用者主体の支援姿勢 ●自律した生活を支えるための援助 ●根拠ある介護●チームケアの重要性●事業所内のチーム●多職種から成るチーム |
| | | (3)介護に係る職種 P141～148 ●異なる専門性を持つ多職種の理解 ●介護支援専門員●サービス提供責任者 ●看護師等とチームとなり利用者を支える意味●互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供●チームケアにおける役割分担 |
| | 1h (通信1h) | 2.介護職の職業倫理 (1)職業倫理 P149～160 ●専門職の倫理の意義●介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等) ●介護職としての社会的責任●プライバシーの保護・尊重 |
| | 1h (通信30分) | 3.介護職における安全の確保とリスクマネジメント (1)介護における安全の確保 P162～163 ●事故に結びつく要因を探り対応していく技術●リスクとハザード (2)事故防止、安全対策 P167～174 ●リスクマネジメント●分析の手法と視点 ●事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等)●情報の共有 |
| | | (3)感染対策 P174～190 ●感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断) ●「感染」に対する正しい知識 |
| | 30分 (通信30分) | 4.介護職の安全 P191～202 (1)介護職の心身の健康管理 ●介護職の健康管理が介護の質に影響 ●ストレスマネジメント ●腰痛の予防に関する知識 ●手洗い・うがいの励行●手洗いの基本 ●感染症対策 |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

介護・福祉サービスの理解と医療との連携①

指導の視点

- 介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。
- 利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他制度サービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。

修了時のポイント

- 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
- 介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の枠について列挙できる。
- ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
- 高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
- 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 2h (通信3h) | 講義 テキスト①P205～249 1.介護保険制度P205～216 (1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ●ケアマネジメント ●予防重視型システムへの転換 ●地域包括支援センターの設置 地域包括ケアシステムの推進 |
| | | (2) 仕組みの基礎的理解 テキスト①P216～249 ●保険制度として基本的仕組み ●介護給付と種類 ●予防給付 ●要介護認定の手順 |
| | | (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ●財政負担 ●指定介護サービス事業者の指定 |
| | 30分 (通信2h) | 3.障害者自立支援制度およびその他の制度P263～282 (1)障害者福祉制度の理念 ●障害の概念 ●ICF(国際生活機能分類) |
| | | (2)障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ●介護給付・訓練等給付の申請法支給決定まで |
| | | (3)個人の権利を守る制度の概要P283～309 ●個人情報保護法 ●成年後見制度 ●日常生活自立支援事業 ●生活保護制度 |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

介護・福祉サービスの理解と医療との連携②

指導の視点

- 介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。
- 利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他制度サービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。

修了時のポイント

- 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
- 介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大きさについて列挙できる。
- ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
- 高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
- 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。

| 求職者支援 | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|-------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 講義 テキスト①P251～261 2.医療との連携とリハビリテーション ●医行為と介護 ●訪問看護 ●施設における看護と介護の役割・連携 ●リハビリテーションの理念 |
| | 30分 (通信1h) | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

介護におけるコミュニケーション技術

指導の視点

- 利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手への心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。
- チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。

修了時のポイント

- 共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的コミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 1時間30分 (通信2h) | 講義 テキスト②P3～75 1.介護におけるコミュニケーション P3～27 (1)介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ●相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ●傾聴 ●共感の応答 |
| | | (2)コミュニケーションの技法、道具を用いた言語コミュニケーション テキスト②P27～ ●言語コミュニケーションの特徴 ●非言語コミュニケーションの特徴 |
| | | (3)利用者・家族とのコミュニケーションの実際 テキスト②P37～40 ●利用者の思いを把握する ●意欲低下の要因を考える ●利用者の感情に共感する ●家族の心理的理解 ●家族へのいたわりと励まし ●信頼関係の形成 ●自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ●アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い |
| | | (4)利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 テキスト②P40～51 ●視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術の実際 ●失語症に応じたコミュニケーション技術 ●機音障害に応じたコミュニケーション技術 ●認知症に応じたコミュニケーション技術 |
| | 1時間30分 (通信1h) | 2.介護におけるチームのコミュニケーション P53～75 (1)記録における情報共有化 ●介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ●介護に関する記録の種類 ●個別援助計画書(訪問・通所・入所・福祉用具貸与等) ●ヒヤリハット報告書 ●5W1H (2)報告 ●報告の留意点 ●連絡の留意点 ●相談の留意点 (3)コミュニケーションを促す環境 ●会議 ●情報共有の場 ●役割の認識の場(利用者とは頻回に接触する介護者に求められる観察眼) ●ケアカンファレンスの重要性 |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

老化の理解

指導の視点

高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。

修了時のポイント

- 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。
- 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 3時間 (通信30分) | 講義 テキスト②P81～141 1.老化に伴うこととからだの変化と日常 テキスト② P81～101 (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ●防衛反応(反射)の変化 ●喪失体験 ・バイタルチェック(バイタルサイン) ・利用者の様子の普段と野違いに気づく (実技)体温・脈拍測定 |
| | | (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 テキスト② P102～ ●身体的機能の変化と日常生活への影響 ●咀嚼機能の低下 ●筋・骨・関節の変化 ●体温維持機能の変化 → 介護職の知識、看護の ●精神的機能の変化と日常生活への影響 |
| | 0分 (通信2.5h) | 2.高齢者と健康 テキスト P107～108 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ●骨折 ●筋力の低下と動き・姿勢の変化 ●関節痛 |
| | | (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 テキスト P109～141 ●循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ●循環器障害の危険因子と対策 ●老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症) ●誤嚥性肺炎 ●病状の小さな変化に気付く視点 ●高齢者は感染症にかかりやすい |
| | | |
| | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

認知症の理解①

指導の視点

- 認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。
- 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則について理解を促す。

修了時のポイント

- 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ●健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- 認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- 認知症の心理・行動ポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方、および看護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。
- 認知症の利用者とのコミュニケーション(言語・非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。
- 家族の気持ちや、家族が受け入れやすいストレスについて列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 1時間 (通信30分) | 講義 テキスト②P145～150、P173～198 1.認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念 ●パーソンセンタードケア ●認知症ケアの視点(できることに着目する) |
| | 1時間 (通信1時間) | 3.認知症に伴うこととからだの変化と日常生活 (1)認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ●認知症の中核症状 ●認知症の行動・心理症状(BPSD) ●不適切なケア ●生活環境で改善 (2)認知症の利用者への対応 テキスト P181～189 ●本人の気持ちを推察する。 ●プライドを傷つけない。 ●相手の世界に合わせる ●失敗しないような状況をつくる ●すべての援助行為がコミュニケーションであると考える事 ●身体を通じたコミュニケーション ●相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する。 ●認知症の進行に合わせたケア |
| | 1時間 (通信30分) | 4.家族への支援 テキスト P191～198 ●認知症の受容過程での援助 ●介護負担の軽減(レスパイトケア) |
| | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

認知症の理解②

指導の視点

- 認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。
- 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則について理解を促す。

修了時のポイント

- 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ●健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- 認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- 認知症の心理・行動ポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方、および看護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。
- 認知症の利用者とのコミュニケーション(言語・非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。
- 家族の気持ちや、家族が受け入れやすいストレスについて列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント | |
|--|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| | 0分 (通信1時間) | 講義 テキスト②P151～171 2.医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ●認知症の定義 ●物忘れとの違い ●せん妄の症状 ●健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア) ●治療 ●薬物療法 ● 認知症に使用される薬 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

障害の理解**指導の視点**

- 介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。
- 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。

修了時のポイント

- 障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 1時間 (通信1時間) | 講義 テキスト②P199～234 1.障害の基礎的理解 テキスト②P201～206 (1)障害の概念とICF ●ICFの分類と医学的分類 ●ICFの考え方 (2)ノーマライゼーションの概念 |
| | 1時間 (通信1時間) | 2.障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識 テキスト②P207～221 (1)身体障害 ●視覚障害 ●聴覚、平衡障害 ●音声・言語・咀嚼障害 ●肢体不自由 ●内部障害 (2)知的障害 テキスト②P222～223 ●知的障害 (3)精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) テキスト② P223～229 ●統合失調症・気分(感情)障害・依存症などの精神疾患 ●高次脳機能障害 ●広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4)その他の心理の機能障害 |
| | 1時間 (通信1時間) | 3.家族の心理、かわり支援の理解 テキスト②P231～234 家族への支援 ●障害の理解・障害の受容支援 ●介護負担の軽減 |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

行動障害の理解**指導の視点**

- 介護において行動障害を理解することの必要性に気づかすように促す。
- 行動障害の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解するように促す。

修了時のポイント

- 介護において行動障害を理解することの必要性に気づくことができる。
- 行動障害の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解することができる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|--|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 講義 テキスト②居宅介護員初任者研修 行動障害 1.行動障害とはどのような状態をいうか。 |
| | 30分 (通信0分) | |
| | 1時間 (通信0分) | 自閉症の理解・自閉症の障害特性 1.自閉症の理解 ・行動障害を起こしやすい自閉症とはどのような障害か 2.自閉症の障害特性 ・コミュニケーションや感性の特性、転動性、時間・空間の整理統合、変更への対応や記憶の維持の困難さ |
| | 30分 (通信0分) | 行動障害が起きる背景の理解 1.支援者の不適切な対応が行動障害を誘発していることを知る。 |
| | 1時間 (通信0分) | 行動障害を起こさないようにするための支援 1.行動障害を誘発せず、本人が安心して自信を持って生活できるための支援 |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

介護の基本的な考え方

指導の視点

- 高齢者の様子をイメージでき、要介護等に応じた在宅・施設等における高齢者の生活ついてほしいところを説明できるように促す。
- 利用者の身体の状況に合わせた介護のポイントについてほしいところを説明できる。

修了時のポイント

- 介護プロセスに関する専門的知識・技術を習得するだけでなく、介護の理論・制度、法律などの側面が理解できる。
- 介護の基本的な考え方として、介護の理念や法的根拠、介護を行ううえでの視点をについて学習する。利用者を主体とする介護の意味を理解する。

| 求職者支援 | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント | |
|-------|-------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 1時間30分 (通信1時間) | 講義 テキスト③P3~15 1.介護の基本的な考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ●倫理に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ●法的根拠に基づく介護 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

高齢者の心理

指導の視点

記憶や感情のメカニズムをはじめ、幸福感や生きがいを感じる自己の概念、さらには老化や障害の受容、適応について理解させる。

修了時のポイント

- 人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント | |
|--|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| | 1時間30分 (通信1時間) | 講義 テキスト③P17～36 2.介護に関するところのしくみの基礎的理解 ●学習と記憶の基礎知識 ●感情と意欲の基礎知識 ●自己概念と生きがい ●老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ●ところの持ち方が行動に与える影響 ●からだの状態がところに影響を与える影響 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

講師マニュアル

からだのしくみ

指導の視点

介護実践に必要なからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。

修了時のポイント

人体の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント | |
|--|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| | 3.5h (通信2.5h) | 講義 テキスト③P37～77 3.介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ●人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ●中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ●骨・関節・筋に関する基礎知識 ボディメカニクスの活用 ●自律神経と内部器官に関する基礎知識 ●こころとからだを一体的に捉える ●利用者の様子の普段との違いに気付く視点 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

総合生活支援技術演習①

指導の視点

生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の復習を目指す。

修了時のポイント

- 事例紹介から、利用者の置かれている環境、現在状況や気持ち、家族の思いなど全体像をとらえる。
- 各場面において「自立支援」「安全と安心」「尊厳の保持」の観点と介助の留意点をふまえて、適切な介護方法を捉えることができる。
- 事例における全体像を振り返り、今後のk第などを推測する。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント | |
|--|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 4時間 (通信0分) | 講義 テキスト③P409～436 演習 【事例1】 事例概要、日常生活状況、今後の支援方向性、介護サービスにおけるポイント 総合生活支援技術演習P409～419 手順書を書く。手順書に基づいて根拠を考える。 (演習1) 場面1～3まで、グループより2名で行ってもらおう。 (演習2) グループワーク P420～422 グループ内で進行役、記録係を置く。話し合いの時間、発表の時間などタイムスケジュールを伝える。 | 演習 【事例2】 事例概要、日常生活状況、今後の支援方向性、介護サービスにおけるポイント 総合生活支援技術演習P422～434 手順書を書く。手順書に基づいて根拠を考える。 (演習1) 場面1～3まで、グループより2名で行ってもらおう。 (演習2) グループワーク P434～436 グループ内で進行役、記録係を置く。話し合いの時間、発表の時間などタイムスケジュールを伝える。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

総合生活支援技術演習②

指導の視点

生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の復習を目指す。

修了時のポイント

- 事例紹介から、利用者の置かれている環境、現在状況や気持ち、家族の思いなど全体像をとらえる。
- 各場面において「自立支援」「安全と安心」「尊厳の保持」の観点と介助の留意点をふまえて、適切な介護方法を捉えることができる。
- 事例における全体像を振り返り、今後のk第などを推測する。

| 求職者支援 | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント | |
|-------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| | | 講義 テキスト③P436～459 | |
| | | 演習 【事例3】 事例概要、日常生活状況、今後の支援方向性、介護サービスにおけるポイント 総合生活支援技術演習P409～419 手順書を書く。手順書に基づいて根拠を考える。 (演習1) 場面1～3まで、グループより2名で行ってもらおう。 (演習2) グループワーク P446～448 グループ内で進行役、記録係を置く。話し合いの時間、発表の時間などタイムスケジュールを伝える。 | |
| 6時間 | 150分 | 演習 【事例4】 事例概要、日常生活状況、今後の支援方向性、介護サービスにおけるポイント 総合生活支援技術演習P451～458 手順書を書く。手順書に基づいて根拠を考える。 (演習1) 場面1～3まで、グループより2名で行ってもらおう。 (演習2) グループワーク P459～461 グループ内で進行役、記録係を置く。話し合いの時間、発表の時間などタイムスケジュールを伝える。 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

介護過程の基礎的理解(介護の展開)

指導の視点

介護過程を展開していくうえでの視点、「根拠」や「理由」に基づく介護実践を目指す。

修了時のポイント

- 介護過程の目的・意義が理解できる。
- 「根拠」や「理由」に基づいて介護実践が出来る。

| | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント | |
|--|----------------|------------------------------------------------------------------|--|
| | | 講義 テキスト③P399～407 | |
| | 3時間 (通信30分) | ①介護過程の基礎的理解 ②介護過程の展開に必要な構成要素 ●介護過程の目的・意義・展開 ●介護過程のアプローチ | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

レクリエーション

指導の視点

レクリエーションとはなにかを考え、介護を必要としている高齢者・障害者にとってのレクリエーション援助の視点、レクリエーションを提供する援助者の役割を理解できるように促す。

修了時のポイント

- レクリエーションの意義、目的が理解できる。
- レクリエーションを提供する援助者の役割、援助の方法が理解できる。

| 求職者支援 | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント | |
|-------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 3時間 | 0分 | <ul style="list-style-type: none"> ●レクリエーションの意義、目的 ●高齢者・障害者のレクリエーション活動 ●タイプ別レクリエーション援助の方法 ●事例説明 | |
| 3時間 | 0分 | <ul style="list-style-type: none"> ●各グループに分かれて、レクリエーションの企画。 <ul style="list-style-type: none"> ・手順書→根拠をグループで考えさせる。 ・デイサービスの事業所になってレクリエーションの企画を進める。(次の時間、レクリエーションを実際やってもらう。) | |
| 3時間 | 0分 | <ul style="list-style-type: none"> ●各グループにデイサービス事業所になってもらい、(他の人は利用者になってもらう) 実際レクリエーションを行う。 ●まとめ | |
| | | | |
| | | | |

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

修了テスト

指導の視点

修了時のポイント

- カリキュラムの全科目を履修した受講生に対し、筆記試験により1時間程度実施する。
- 70点以上を合格とする。

| 求職者支援 | 一般 | 具体的な講義内容(進行方法)及びポイント |
|-------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1時間 | 60分 | <ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムの全科目を履修した受講生に対し、筆記試験により1時間程度実施する。 ●70点以上を合格とする。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

添削指導及び面接指導の方法等

修了テストは受講者全員を対象として行うものとする。